



- 1 気象概況（4月中旬：果樹研究所）
 4月3～4半旬の平均気温は、3半旬が9.8℃で平年より0.9℃低く、4半旬が13.2℃で平年より1.7℃高く経過しました。
 この期間の降水量は72.0mmで平年の224%でした。
- 2 発育状況（果樹研究所4月21日現在）
- (1) ももの開花始めは、「あかつき」が4月12日、「ゆうぞら」が4月14日でともに平年より2日早まりました。また、満開は、「あかつき」が4月17日で平年より3日早く、「ゆうぞら」が4月19日で平年より2日早まりました。
 - (2) なしの展葉は、「幸水」が4月14日、「豊水」が4月10日でともに平年より1日早まりました。また、開花始めは、「幸水」が4月21日、「豊水」が4月17日でともに平年並でした。
 - (3) おうとう「佐藤錦」の開花始めは近日中の見込みです。
 - (4) ぶどう「巨峰」の発芽は4月16日で平年より3日早まりました。

表1 開花状況

品 種	品 種	開花始め			満開		
		本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
も も	あかつき	4月12日	4月14日	4月5日	4月17日	4月20日	4月11日
	ゆうぞら	4月14日	4月16日	4月5日	4月19日	4月21日	4月11日
な し	幸 水	4月21日	4月21日	4月13日	未	4月26日	4月19日
	豊 水	4月17日	4月17日	4月9日	未	4月23日	4月16日

注) 平年値は1986～2015年の平均値。

表2 発芽・展葉状況

樹 種	品 種	発芽			展葉		
		本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
な し	幸 水	4月5日	4月2日	3月28日	4月14日	4月15日	4月6日
	豊 水	4月3日	3月31日	3月24日	4月10日	4月11日	4月3日
ぶどう	巨 峰	4月16日	4月19日	4月8日	未	4月25日	4月16日

注) 平年値は1986～2015年の平均値（ブドウは1988～2015年）。

- 3 開花予測
 今後の気温が平年並に経過した場合、りんご「ふじ」の開花始めは4月27日で平年より1日遅いと予測されます。
 開花期は直前の気温に左右されやすいので、今後の気象の推移に注意が必要です。

表3 開花予測日（4月21日現在）

樹 種	品 種	開花始め		今後の気温経過と開花予測日		
		昨年	平年	平年並	2℃高い	2℃低い
りんご	ふ じ	4月18日	4月26日	4月27日	4月25日	4月28日

注) 発育速度（DVR）モデルによる発育予測。開花始めの平年は1986～2015年の平均値。

4 栽培上の留意点

(1) 防霜対策

開花期から幼果期にかけては、耐凍性が最も弱くなるので、気象情報に十分注意し、防霜対策を徹底しましょう。また、生育は各樹種ともに平年並からやや早く推移しています。1か月予報によれば、気温が平年並または低く推移すると見込まれているため、発育予測（表3）を考慮して、生育ステージごとの安全限界温度を下回る温度に遭遇するおそれがある場合には速やかに防霜対策を実施しましょう。

（各樹種の生育ステージ別安全限界温度は、下記の技術資料を参照）

「作物別凍霜害及びひょう害技術対策（平成29年3月22日）」

URL <http://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/207836.pdf>

事前対策としては、防霜資材の準備を徹底するとともに、地温の上昇を図るため下草は5cm程度にこまめに刈り込みましょう。また、空気や土壤が乾燥している場合は適宜かん水を実施し、土壤水分を確保しましょう（乾燥条件は気温の低下が著しいため）。

なお、降霜による被害が見られた場合は、被害状況を確認の上、人工受粉を徹底し結実確保を図りましょう。

(2) 人工受粉

開花期が低温や強風、乾燥条件で経過すると結実が劣る場合があるので、このような条件下では人工受粉をより丁寧に行いましょう。

人工受粉の際に、花粉を石松子などで増量する場合には事前に発芽率を確認し、発芽率に応じた希釈倍数としましょう。なお、発芽率30%以下の花粉は希釈しないでそのまま使用します。受粉期間中は、花粉をできるだけ涼しい場所（冷蔵庫が望ましい）に密封して保管し、花粉発芽率の低下を防ぎましょう。

5 病虫害防除上の留意点

(1) 病害

ア りんご黒星病、うどんこ病

開花期前後は黒星病及びうどんこ病の重点防除時期にあたるため、開花直前にDMI剤のいずれかを散布し被害防止に努めましょう。また、うどんこ病の被害葉叢は展葉期から開花期にかけてみられるので、見つけ次第せん除して処分しましょう。

イ ももせん孔細菌病

春型枝病斑が第一次伝染源となり、風雨に伴って新梢葉や果実に二次伝染するため、ほ場を定期的に巡回し、春型枝病斑を見つけ次第必ずせん除しましょう（図1）。また、落花直後にせん孔細菌病防除剤を必ず散布し、初期感染防止に努めましょう。



図1 ももせん孔細菌病の春型枝病斑（4月17日撮影）

ウ なし黒星病

開花前の花托（花床）及び開花後約2週間までの幼果は、感受性が非常に高く、重要防除時期に当たります。そのため、開花の前と後に効果が高いDMI剤を散布間隔が10日以上あかないように散布しましょう。なお、天候の影響等で散布間隔が10日以上あくことが予想される場合には、落花を待たずに受粉が十分に行われた後（満開5日後頃）に防除を行いましょう。また、第一次伝染源となる花叢基部病斑は見つけ次第必ず除去しましょう。

(2) 虫害

ア モモハモグリガ

モモハモグリガ越冬世代成虫の誘殺盛期は4月5半旬であると考えられるため、第1世代幼虫の防除適期は4月6半旬と推察されます。ミツバチ等の導入園では巣箱回収後、速やかに防除を行いましょう。

イ ハマキムシ類

今後、気温が平年並に推移した場合、リンゴモンハマキ越冬世代成虫の誘殺盛期は5月4半旬と予測され、リンゴコカクモンハマキもこれに準ずると推察されます。複合交信かく乱剤はハマキムシ類越冬世代成虫の発生前である5月3半旬頃までに設置しましょう。

ウ その他の鱗翅目害虫

ナシヒメシクイのフェロモントラップによる初誘殺日は4月16日であり、平年並でした（平年値は4月16日）。例年、発生が多い園では、5月3半旬までに防除を実施しましょう。キンモンホソガもこの時期に防除を実施しましょう。

エ リンゴハダニ

リンゴハダニのふ化盛期は4月6半旬頃であると考えられます。越冬卵密度の高い園では、落花期以降の発生密度に注意し、要防除水準（1葉当り雌成虫1頭以上）に達したら殺ダニ剤を使用しましょう。

表4 果樹研究所における主要害虫に対する防除時期の推定

（演算方法は三角法、平成29年4月19日現在）

今後の気温予測	モモハモグリガ		リンゴモンハマキ	
	越冬世代 誘殺盛期	第1世代 防除適期	越冬世代 誘殺盛期	第1世代 防除適期
2℃高い	4月22日	4月28日	5月14日	5月27日
平年並	4月22日	4月29日	5月20日	6月4日
2℃低い	4月23日	5月2日	5月29日	6月13日

起算日：3月1日

病害虫の発生予察情報・防除情報

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

URL: <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 技術革新支援担当 TEL 024(521)7344

（以下のURLより他の農業技術情報等をご覧いただけます。）

URL: <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>